学校番号	２１２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｂ　（数研出版）						
副教材等	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C[数列、統計的な推測、ベクトル](数研出版) 新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B+C[ベクトル](数研出版)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ｂ範囲内の「数列」について、基礎的な知識と発展的な研究を学ぶとともに応用する力を伸ばしていきます。「数列」は、今までの中学校から数学Ⅰ・数学Ａの内容にはない概念によって事象を扱う新しい内容です。新しい概念に慣れ、公式や定理を暗記するのではなく、その原理を理解し、自ら考えてより深い学びへとつなげてください。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

1. 数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化する。また、それらを数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につけるようにする。
2. 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力や、様々な事象を数学化して問題を解決する力、解決の過程や結果を振り返って考察する力を養う。
3. 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度や、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返ることで考察を深めそれを評価・改善につなげようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈し合ったり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数列	第1節　数列とその和 1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等差数列とその和 4. 和の記号Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和	a:数列の定義、表記について理解するとともに、用語、記号を適切に用いることができる。数列の和の公式を利用して、一般項を求めることができる。 記号Σの意味と性質を理解し、数列の和を求めることができる。 b:等差数列や等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 数列の和を記号Σで表す。また、和の計算を簡単に行うことができる。 c:数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 いろいろな数列の和を求める公式から、数列に興味をもち、考察をしようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	テストの振り返り 問題集の取り組み
2学期		第2節　漸化式と数学的帰納法 7. 漸化式と数列 8. 数学的帰納法	a:数列の機能的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにする。 b:複雑な漸化式を既知のものに帰着して感がられるようにする。 c:数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	定期考査 小テスト	定期考査 レポート	テストの振り返り 問題集の取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度